



お客さまにぴったり合った 保険見直しアドバイス

ここでは、10のケースを挙げて、保険の見直し提案のポイント・効果を解説する。

ケース1~4

FPソリューション代表
CFP®

黒澤 雄一

ケース5~7

(株)fp ANSWER
CFP®

大泉 稔

ケース8~10

(株)ボラーノ・コンサルティング代表取締役
CFP®

深澤 泉

ケース1

古い医療保険の見直しを検討しているAさん

入院短期化や通院治療等の 医療事情に合った保障内容を提案

Aさんが現在加入している医療保険は、独身時代（10年前）に知人から勧められて加入したものである。

先日、70歳の父親ががんと診断され、抗がん剤治療を行っているが、医療費の負担が大変と聞き、改めて自分の医療保険はこのままでよいかと考えている。

医療の実態に即した 新たな特約を各社が販売

● 保険見直しのポイント

Aさんが加入している医療保険は、入院5日目から保障されるといって、10年前にはごくオーソドックスなタイプのもので、入院・手

術の保障を一生、変わらない保険料で継続できるタイプの医療保険である。

医療保険は生命保険業界では比較的新しい保険であり、従来は死亡保障の生命保険に特約として入院保障を付加するのが一般的であった。

それが20年ほど前から医療保障を主契約で引き受ける商品を各社が販売するようになり、それとともに保険料の低廉化や世の中のニーズに合わせた各種特約の拡充が行われてきている。

Aさんの医療保険は、あらゆる病気やケガの入院時の保障としては10年前の標準的なスペックの保険といえるが、がんなどの医療費

が高額になりがちな病気への備えとしては不安が残る。

また、昨今の医療事情では、お客さまが心配するほどの長期入院というのは珍しく、がんの放射線治療や抗がん剤治療でも通院で行われることが少なくない。

この10年の間に、医療保険に付加できる特約として現れてきたのは、がんの診断一時金特約、抗がん剤治療特約、先進医療の費用をカバーする特約、自宅療養中でも治療費や生活費がカバーされる特約などがある。

いずれも医療の実態に即した新たなニーズがあり、それに対応した特約が各社から販売されている状況である。